



9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

へ13
04390



四三二一

四三一初

麻比海子筆總目錄

第一回錄

びんびうやかみ

えんうんぎ

せりぬれりのこ

いあらうのびうじすき

第二回錄

おもてびもとく

じせき

同二びん目

まゆぢれううみん

第一

<2015-12>

火の見やぐれ居て
松原尾上相す

いとあり到る

第三回緒

たとむのうがき
あま報をあれ程す
さうの町よりかきを

二くび

五月のわいまひ
かと金れげんと相
ひきのよみそまひ

廉の生と死

ゆきれもゆり
さきともやうじてももやうありばかふ余と
さうせず月日ゆきあもゆんやうよびの車ろ
りあくあらうのほひでよしが人のゆきくと
りてき人がのやまとくまをまよはひのゆきくと
ゆきゆくごそゑくあまのうきくのうま
とせききのとひとくすとくまみみあ
ゆくものあじより我身ひりもドまりま
りのうりとびんとさーこもかくくくと
りづきのうりゆきまくがくふくま



さきかあくべりをあわせやへぬが今。か
みのうのるに。やあかひ。まごすゆま。ま
地水や風をのめりにかへゆり月もあり口もあ
あひち女男とありと大きよにいえひよ
かきかあぬ。めきとくつと見つかんがて
るふようだらのりとある。さわらのさづく
うりもうりと。あんめのかづひあり。ゆてそ
れうちたまうとあきみのあめよどとあうみの
あきみのあくゆうさんとしゆ。めきとくつと
あきみをきたきを。ぞもう男いふ。さうそ
ういふ。じめそのうゆら。けくまをいぬす。

前でゆきてりとく

ゆきのあゆ

雪ようとゆきかねむとあく人を寝る
大吉とゆきふ。いはきとく。くにうゆうてけ
音としおこひと。どうもいよおぬ。やく男あけ六
十九のまひけく。とくのと。すうききよ
けふせんれなまと。もとあまにあれたまよ
をとれてよまとそくに何をめりあきみと
おもひりや。まあ。八月廿一日ふとくせんまん
ありまるとそげたせのうらでゆのをとく

るはあくとあひさんとへにゆきそが
心はう代をゑ式分ゆてはあちて外と
もあひてうかうせふき方にからり人
まうりて、まわたのせうのまどがちるす
ざむにかほまとあくまよみせくまざ
小をえすかひにびくひと。やうにうり
あまともあともあひせんそくゆきあるよ
かのまにほとあひめきてちく。よもよを
かんすとちぢるかくまはゆく。ひく乃
てうかうあひて、よめすぬきてせんあと
しゆくにつゝゆがにふまうきらのあきら
ひじてうきりかくじとまきだら
人のまくまくうるむらむらがくまくま
せんきあぬゆのりありせひくかりてあ
かくきけきそりたくあげきくらりそそ
あひてまゆにゆきがましとうちたかまそ
の十室をうかんまのまくらにまとまくらの
ばゆきかのゆくゆくうくのまとまくら
あきくらもくらをあんじまわがゆくまを
りまくもやくまのまくら



かう一ゆきひり女の身をもともの男入る
のうちへなまくらむのまくらかまゆりと
まくらまくらはりてゆきまくらをあんぢまくらを
ゆきにほるとのほけよあうとそとてひくとす
おひひあをと人のよしやゆとがくげの
ゆくとあてがくかたまをさりきまくらにせ
とくとくせ我まえをひんとすあぐらぞひく
はまの時ああぬやぞく一ひとのてぬ
まびゆくてゆたがのやくまびへぐくあく
きわくまくらのひまたあむとたゆみうてわを
まきをまくらへりくがまくらくまくらまくら
まきをまくらまくらまくらまくらまくら
ゆくらまくらゆくらのあゆまくらまくら
なりにちくらまくらまくらあひまたまくら
ああをまくらをどもんじうじうひまきだり
まきをまくらひまきまくらゆくあぢうじうひま
まくらまくらまくらまくらまくらまくら
のまくらまくらまくらまくらまくらまくら
あらうりとまくらまくらまくらまくらまく
のまくらまくらまくらまくらまくらまくら
しほげあくらまくらまくらまくらまくらまく
まくらまくらまくらまくらまくらまくら

あらうくのまへ一ほじよおうじてせ房り
でまきと金おいはよあづとを食とすあり
ぐらりある

ひめよすらうりあそとらうへ。え、うゆ
あらゆ。あらまうと。ほむよかすとまきと
え、うゆ。あらまうとらうめりとまく
らうきとよもああにまうきあらうの。お
あそとまうと。ほむよかすとまうと。あらまうと
でまうとまうのまうきとまうと。うがのりのま
がうりとまうと。うがのりのまうと。うがのりのま
がうりとまうと。あらまうと
まうとまうきとまうと。うがのりのまうと。うがのりのま

まうのまうりのまうりのまうりのま
あそとまうりのまうとまうりのまうりのま
かりとまう。かりとまうひとのまうぬとまうと
まうとまうぬと。かりとまうとまうとまうと
まうとまうぬと。かりとまうとまうとまうと
まうとまうぬと。かりとまうとまうとまうと
かりとまうとまうとまうと

ぞくがまほ

町くくすきくまでおきのねんこはより
りんかまこととにまがまほとまほとまほ
かまくまくまくまくまくまくまくまくまく



りうよひうちからみくろもとへと宿
りあさきをたまうるまほれらをとくらむ
つまきこきあわてうのうとてゆうりれしもあ
らもひとせまくゆきうがひもとめくらき
かくらうとあとにゆうとまくよつちまくの
あくじよあよからりやがくらりくらは日よりと
りくのとくあうまくともじあくらかうりあう
にきそまうりゆくこかくらまくらうきそく
さきゆせじまくうつてけのとよあそくざく
ゆせじまくうりゆくこかくらまくらうきそく
もたなきあきりとれたのとゆす寺伝とくとく

おまえもくぢきわのいひ廢うきくあくま
りうとまなにゆううつてよだんかにかぢう
かぢでまくまくねりひがんきくぢりへあぐう
りうとまくまくねりひがんきくぢりへあぐう
くまよあくまくにまくたうといゆらのまくニキ
やどくまくびきたくまくまくゆうまく

作翁がかく

南さん齋町二丁目よひうらうやんひあくまく
かぬけよあくまくねりひがんきくぢりへあぐう
あまくまく男あまくとくと作翁と壁をくら
ほむにかまくとくとくとくとくとくとく

はとありしよあくとまへやまへてちののがれう
かの仰あよシとつてをやまとうちにきじゆのそ
まらくみやうだんねとまくとくをさそく
をかくびざうすとく。魚づらうとく。だん那
まかうりぬすといふよまのゆよようう
とのまくやのともあひた。ひくのかう
あるとくとく。まくとくのりうりありてあく
いとまんきまくとく。やすれゆくとく
トますが魚のふぬくとまくとまくと
くとく

神の塵

あくやりきせんにほりを家前門へりま
人の神とひきす人のむよまがありとトりと
ひきすを今もよまがむかひこそ板あり
かうけきりけことそりと云ふあり。もううり
そくもりあり。あくやりきりとそり。うらきひひそ
井。もあり。かきあたき。あくの日よひあら
こりのじきの場とくとく。うへ。後とすらあり
中よめのりとく。門もあり。その門よ。入あうと
えをか入のよ。あり。よむとく。うるあり

三十九ある事とあるのせまふかりうまうて
口のうわとかくざり。ありとどくとて、ありあり
えれきひきのとて、そぞをうしめありとうよ
がその口みからむのありありまかんのゆり
にあうごんのとくはあまかどりともとくうあり
まぐやうごんのたゆよりがうありうかうを
とくへ廻てにうちがうありと云うきととがう
がうりやそくするがまうくやうごんをもと
せうかくつてをへらとまがあ方のあーと
ゆげづてとくへますゆいのととありてへりく
やう

あふ角のよきげん

えふ花のえふとくとくそ半うりふかじか
ふゆりありえんはれ三すれ十ニよけう南か篠
ちりー、かまそまきくじとあびじしくかまそ
りそそにえのをくとくとくとあそとあそと
せりふすのひ扇へをそのひんよう一かりす
ひりあすー母ちやとそくれよゆきひがふ
そそくそらにあまふくわらまみそらくと
そそくそらにあまふくわらまみそらくと
そじひらあびーとそりありひきほくうひてか
らき一吹すかそとよまみのめがぢらき



用五

土

まうてせれまうと下へあらひをとおなけめ
そきあはれともよまれ母よそのまうめのふるもの
かくつて母あらもとももあくとよすをづそ乃
堅かうとそをあきわへくまふうとてせま
きよめにぐくおあひびじくありがあふうり
まうてあらのがたのいそとせたたひきとそ
いふく風くじてどあらばうがたのいがふん
きとあらにあらまきとて西月くゆまだう
くやあきいさうのうとづえま
もくあらうとたくがあはまくいじとせ
いへきとあまうがのきくうすり
りあらのまうとたくうのてあきがうくがえ
うじとくきとあらもあらうがえ
きあきあせがまのあまのまうとたくそ
こりそ

まうのまうのまう

本巣町まますとあそ日訪あまくにあまうれ去
あまふまくにあぐにあんととくらひよりてがむを
まくまひひりがとくらみととくとくと
にああくああやあきまきりがひひまのりにまうり
かたのちまくとくあまうのまうとうてこか
まうのとくにあひひりてせま

まよやくのよがかの野多とびぢりてもか
あひるをあつてのありとせもののははもとくで
まよりはあつてはまひまじめとつては
すくとすくあがものあづきりとくらうすゆ
めとくとくとくとくとくとくとくとくとく
よそもくあひくよひくよひくよひくよ
やうきがまよひくよひくよひくよひくよ
いひきがまよひくよひくよひくよひくよ
もひてちよちよひくよひくよひくよひくよ
しぬまよひのわくもとまけまくこにうよ
とれどたくあぐのめうつてかへらむよ
もよひのうますまうとあがひうとまうと
もよひ

四百九十九首

きな人をあらうとあらうと風のむきけふとせぎ金管
よかううかううたひと身すあひ町のあまくと
よかううかううとひと身すあひと身かうん
ゆうじまのこかと身すと身すと身すと身すと身すと
ううじまのこかと身すと身すと身すと身すと身すと
身すと身すと身すと身すと身すと身すと身すと身すと
身すと身すと身すと身すと身すと身すと身すと身すと

ゆすじほしのまうじよじかきむらわく
モトえんれむうわきうりわげまんまのもと風ふう
のそとくじりのまうかくまとけうあきもううわ
うかくとトはんうまんかくハカトうりわく
あさのあびもあうわが、れうひやくまのとく
ゆくさのあまれもそそもうりくを
不りもくとくじが是もがりわうりとくをも
そくとくまのまくじが、あぐるのまく
ヒドキとくわくのまくじ

稿

よくにちきああれま、陽氣をあま、まく
かとめざら秋もとのとくにりうの及がり
たかうまをの中よもよつまぬもあーのうよ
ぬれ若く、れどもみのまくにうちて、わく
まもとれどもみのとくにちとくとくとくと
くともれどもみのとくとくとくとくとくと
くともれどもみのとくとくとくとくとくと
くともれどもみのとくとくとくとくとくと

あるとよきありまくようにてけわくかひ
そりと名す一冊よせん一あまとものへゆるの
かくぐもく板本まで内年をひめある角くい麻民
ぞんみとそげりかきへ者二

麻野坐笠巻文終 作者

麻野氏元衛門

開板

